

## 第 48 回 発電用設備規格委員会 火力専門委員会 溶接分科会 議事録

1. 日 時:2011 年 8 月 24 日(水) 13 時 30 分～16 時 15 分
2. 場 所:日本機械学会 第1会議室
3. 出席者:三原(富山大), 樺田(三菱重工)、茂田井(東電)、幅野(IHI)、原田(東芝)、浜田(東電)、  
山下(神鋼)、逢澤(日立)、橋本(発電技検)、北村(関電)、青山(東大)  
欠 席:菅谷(日溶協)  
オブザーバー:梅山(中電)  
事務局:海野(記)

### 4. 配付資料

- 48-1 . 第 47 回溶接分科会議事録(案)
- 48-2 . 溶接分科会委員名簿
- 48-3 . 第 56 回火力専門委員会議事録(案)
- 48-4 . 第 57 回規格委員会議事録(案)
- 48-5 . 火力専門委員会書面投票再投票結果
- 48-6 . 規格委員会書面投票再投票結果
- 48-7 . 発電用火力設備規格委員会書面投票意見対応案(基本規定, 詳細規定溶接分科会関連)

### 5. 議事

#### (1) 前回議事録確認

[資料 48-1]

前回議事録(案)について確認を行った結果、意見等は特になく、議事録案は承認された。

#### (2) 分科会委員の承認

[資料 48-2]

新任候補として、梅山氏が出席委員全員の賛成により次回火力専門委員会に推薦することが承認された。また、逢澤委員の再任意向が報告され、出席委員全員の賛成により、次回火力専門委員会に推薦することが承認された。

#### (3) 報告事項

##### (3-1) 火力専門委員会・規格委員会他報告

[資料 48-3,4]

第 56 回火力専門委員会, 第 57 回規格委員会の審議内容のうち、火力に関連する内容が報告された。特記事項は以下の通り。

- ・ 基本規定案及び詳細規定案各分科会関連は、技術的変更を伴う修正があるため再投票を火力専門委員会から行うこととなった。再投票期間は審議要領に従い2週間で実施することとなった。
- ・ ASMEからのSI値取り込み方針については、規格委員会での決定に従うこととなった。
- ・ 日本鉄鋼協会 高クロム鋼WGについて火力専門委員会において周知されたことを報告した。

(3-2) 火力専門委員会書面投票(再投票)結果報告

[資料 48-5]

基本規定案及び詳細規定案各分科会関連の火力専門委員会書面投票再投票結果について報告した。

<投票対象>

- No.53 基本規定案
- No.54 詳細規定案材料分科会関連
- No.55 詳細規定案構造分科会関連
- No.56 詳細規定案溶接分科会関連

<各書面投票共通>

投票期間:7月19日(火)～8月2日(火)

投票結果:可決(委員数5分の4以上の投票数により投票成立, 投票数3分の2以上の賛成票数, 意見付反対票無しにより可決)

投票内訳:委員数 21 名

賛成 21 票

反対 0 票

保留 0 票

投票意見:反対・保留・参考意見とも無し

(3-3) 規格委員会書面投票(再投票)結果報告

[資料 48-6]

火力専門委員会における書面投票再投票可決を受け, 発電用設備規格委員会での書面投票再投票を実施し, その結果を報告した。

<各書面投票共通>

投票期間:8月3日(水)～8月17日(水)

- No.166 基本規定案

投票結果:委員数の5分の4以上の投票により投票成立し, 投票数の3分の2以上の賛成票があったが意見付反対票があるため, 提案者にて意見対応を実施する

投票内訳:委員数 31 名

賛成 25 票

反対 1 票

保留 0 票

投票意見:反対・保留意見有り(分科会資料に添付)

- No.167 詳細規定案材料分科会関連

投票結果:可決(委員数5分の4以上の投票数により投票成立, 投票数3分の2以上の賛成票数, 意見付反対票無しにより可決)

投票内訳:委員数 31 名

賛成 25 票

反対 0 票

保留 1 票

投票意見:保留・参考意見有り(分科会資料に添付)

- ・ No.168 詳細規定案構造分科会関連

投票結果:委員数の5分の4以上の投票により投票成立し、投票数の3分の2以上の賛成票があつたが意見付反対票があるため、提案者にて意見対応を実施する

投票内訳:委員数 31 名

賛成 24 票

反対 1 票

保留 1 票

投票意見:反対・保留・参考意見有り(分科会資料に添付)

- ・ No.169 詳細規定案溶接分科会関連

投票結果:委員数の5分の4以上の投票により投票成立し、投票数の3分の2以上の賛成票があつたが意見付反対票があるため、提案者にて意見対応を実施する

投票内訳:委員数 31 名

賛成 25 票

反対 1 票

保留 0 票

投票意見:反対・保留・参考意見有り(分科会資料に添付)

#### (4) 審議事項

##### (4-1) 発電用設備規格委員会書面投票意見対応案について

[資料 48-7]

発電用火力設備規格の規格委員会書面投票再投票意見への対応案について審議を実施した。基本規定及び詳細規定(溶接分科会関連)については、反対意見があるため、対応案を8月31日開催の火力専門委員会にて審議後、規格委員会委員に送付する予定。

##### a. 発電用火力設備規格 基本規定(案)の意見対応案

各分科会共通の基本規定のうち、溶接分科会が関与する部分について意見対応案を説明し、審議を行った。特記事項は以下の通り。

##### ○吉田委員反対意見

(i):規格原稿は原案のままとする。次回改訂時の見直し検討の表現については他の分科会と摺合せを行うこととする。

##### ○吉田委員保留意見

(a):規格原稿は原案のままとする。次回改訂時の見直し検討の表現については他の分科会と摺合せを行うこととする。

(b):規格原稿は原案のままとする。次回改訂時の見直し検討の表現については他の分科会と摺合せを行うこととする。

(c):原稿は原案通りとする。

##### <審議時の意見>

・今回の改訂範囲ではなく、既承認済み(2008年版)の範囲において反対意見が出ることで自体が運用としておかしいのではないかと。次回に見直しを検討することに言及すると、今回見直すべきだという意見が出ることで懸念されることから他の分科会と摺合せを行うべきである。

##### b. 発電用火力設備規格 詳細規定(案)溶接分科会関連の意見対応案

詳細規定(案)溶接分科会関連の意見対応案について審議を行った。特記事項は以下の通り。

○吉田委員反対意見

- (a):規格原稿は原案通りとする。
- (b):規格原稿は原案通りとする。
- (c):補遺に説明を追記し、規格原稿は原案通りとする。
- (d):テンパービード溶接以外の溶接方法においても、施工法試験ではなく、評価試験方法での合否により適用を決定していることから、テンパービード溶接についても同様である。そのため、規格原稿は原案通りとする。
- (e)～(i), (k)～(m):(d)に同じ。
- (j):削除することで原稿修正版も作成していたが、手続きの過程において最新版をアップロードがされていなかったため、削除することで回答する。

○吉田委員保留意見

- (a):火技解釈との整合を鑑み、年版指定をする。
- (b):火技解釈との整合を鑑み、年版指定をする。
- (c):本規格が ASME2008Addenda を基に作成している旨を規格序文に記載することから、年版指定は不要であり、規格原稿は原案通りとする。
- (d):ASME 側で年版指定が無いため、年版指定をする。
- (e):指摘通り誤記であるため、修正する。
- (f)～(j):(c)に同じ。
- (k):用語統一をはかり「施工法」を「溶接施工仕様書」と修正する。
- (l):規格原稿は原案通りとする。
- (m):(c)に同じ。
- (n):用語統一をはかり「液体浸透探傷試験」を「浸透探傷試験」と修正する。
- (o):単位換算の考え方を統一するために、12.7mm に修正する。
- (p)～(s):(c)に同じ
- (t):「金属性 casting」を「casting」と修正する。
- (u):(d)に同じ。
- (v)～(x):(c)に同じ。

○吉田委員参考意見

- (a):「金属材料」を「鉄鋼材料」,「非金属材料」を「非鉄材料」と修正する。
- (b):「規程値」を「規定値」と修正する。

(4-2) 構造分科会からの委員枠の運用方針について

[資料無し]

浜田委員より社内業務分担の見直しにより火力専門委員会委員及び各分科会委員を退任し、溶接分科会委員についても退任の予定であることが報告された。溶接分科会発足時に当時の溶接分科会主査から構造分科会との技術面での密接な関連性から構造分科会委員が溶接分科会委員として就任してほしい旨、依頼があり、浜田委員はその際、構造分科会主査として溶接分科会に委員就任したという経緯があった。今般の溶接分科会委員退任にあたり、今後の委員就任に関し、構造分科会委員が必要に応じ、オブザーバー参加することでもよいか

という浜田委員からの質問があり、三原主査からは構造分科会委員からの溶接分科会委員での参加はとても重要であるため今後も委員就任を強く求めたいと、浜田委員に対し要請がなされた。浜田委員は、次回構造分科会開催時に三原主査の意向を伝え、本件について協議する旨、回答した。

5. 次回開催予定

日 時： 2011 年 11 月 11 日 (金) 13:30～17:00

場 所：日本機械学会 第 3,4 会議室

以 上